

二中だより

国立二中ホームページにも掲載：国立第二中学校へアクセス

令和2(2020)年 8月17日
国立市立国立第二中学校
校長 黒田 宏一
国立市富士見台3-30
電話 572-2187

目標を明確に

校長 黒田 宏一

いつもより短い夏休み。不要不急の外出をできるだけ控える夏休み。いつもとは様子の違う夏休みを生徒の皆さんはどのように過ごしたでしょうか。夏季休業日が始まる時期に合わせて梅雨も明け、暑い日々をマスクとともに上手に過ごしたと想像します。本日より2学期が始まりました。連日WBGT31℃を記録し残暑は大変厳しいようですが、体調管理をしっかりしながら、「学びの日常」に少しずつそしてできるだけ早く慣れていきましょう。

その2学期のスタートにあたり、皆さんと1つだけ確認したいことがあります。それは、「目標をしっかり定める。」あるいは、「当初立てた目標を見失わない。」ということです。感染症拡大とその防止のため私達の生活は大きく変わりました。今まであたりまえにやっていたことができなくなり、また今までとは違う生活を求められるようになりました。3ヶ月にも及ぶ臨時休業とともに学校生活が再開されても様々な活動が制限され、教室の一人一人の机にも仕切りのパーティションを付けての授業の毎日です。やりづらさを感じている人も多いことと思います。そんな中、授業・学習に対する姿勢は変わっていないでしょうか。なかなか集中できないと感じているかも知れません。また、部活動や行事、学校生活以外も含めた個人的な活動等、楽しみにしていたこと、頑張りたいと思っていたことができなくなりストレスを感じている人もいるのではないのでしょうか。そのため自分のすべきことや目標が見失われてしまうかも知れません。だからこそもう一度自分の目標を確認してほしいのです。この2学期をどう過ごすか新たに目標を定めても良いと思います。先の見通しが立たない状況が続きますが、目標を見定めることが変化に対応できる力、不安を乗り越える力にきつとなってくれるはずです。

ところで、将棋の藤井聡太七段は7月に史上最年少で「棋聖」の座を獲得しました。コロナ禍で4月中旬から約1カ月半、公式戦はもちろんのこと対局もできない状況でした。ですがその間、「じっくりと自分の将棋と向き合えた。序盤の定跡を自分なりに整理した。」と言うように「自分の将棋の幅を広げ、実力を高めること」を目標と見定めて過ごしたそうです。実力の向上に欠かせない実践(対局)の場を奪われても気落ちすることなく、目標を見失わず逆境を乗り越えタイトルを獲得した姿は私達の励みになるのではないのでしょうか。

時期を同じくして本校の生徒会は、九州・熊本地方を中心とする豪雨災害への救援募金と応援メッセージ募集の取組を行ってくれました。生徒会役員の皆さんは「自分たちも大変だけれど、熊本の皆さんの様子を見たときに、『自分たちにできることは何かないか。』と居ても立ってもいられませんでした。」と、その思いを語ってくれました。その一言に生徒会の目標とする姿が示されているようです。そして目標は「自分たちのすべきこと、できることに着目し取り組むこと」でより明確になるということを教えてくれているように感じます。

学校生活における新しい生活様式は、生徒の皆さんもイメージできていると思います。一方で変化に適切に対応する柔軟性ももちながら、自身の目標を見据えた着実な学校生活を送っていきましょう。



保護者の皆様へ

感染拡大防止のため、各生徒の机の上に透明のパーティションを立てて生活しております。そのパーティションについて、1学期の保護者会では「私費会計（各学年毎の教材費等）より支払う予定」とお知らせいたしましたが、政府から支給された新型コロナ対策予算より支払うことといたしました。ここに訂正をいたします。

令和2年度「ふつうの日になったのか 原爆の日」展「原爆の日を忘れないための一行のコトバ」入選

国立市では毎年、広島と長崎に原子爆弾が投下された1945年8月6日と8月9日の「原爆の日」を「ふつうの日」にしないために、「原爆の日を忘れないための一行のコトバ募集」を行い、選定し市内各所で展示しております。毎年、中学生も応募しております。今年度は次の生徒が入選しました。戦争を知らない世代も平和について考えた貴重な機会となりました。



2-2 今井 凪都 「この日々を宝に、あの日々を記憶に」

2-3 川野辺 友太

「原爆の日を忘れるとか忘れないとかじゃなく、なにが起こったのか知ることが大切なんだ。」

2-4 高岡 聡 「日本は戦争を反対している。だが、しないとは限らない。

だから人類だれもがこの意志をもつことが今後の平和を左右する。」

2-4 緒方 はるか 「あの苦しかった時にしおりをはさんで

新しい真っ白なページにボクらで世界を作っていこう。」

3-2 小澤 咲南子 「ひいばあちゃんの恐怖 伝えつづければ 私たちが」

3-2 菊池 暖人 「人は忘れることで生きていけるが、忘れてはいけないこともある。」

3-4 酒井 胡乃 「関係ない、昔のこと、そんなことでは済まされない。

若い世代の私たちは まずは 知ることから始めよう。」

3-3 丹波 結永 「きのご雲が上がったあの日、僕達は平和という決意をした。」

3-1 渡邊 欣也 「一人一人の心がピース（平和） みんなで作ろう平和のパズル」

生徒会 「令和2年度九州豪雨」被害者の方へ募金とメッセージを贈りました！

甚大な被害を出した「令和2年7月豪雨」は、7月の平年1か月分の2倍から3倍にあたる雨量で、1万棟以上の浸水家屋が出ました。コロナ感染拡大予防の観点から他地区から多くのボランティアが集まらない状況の中、本校では、生徒会が何かできないかと考え、募金とメッセージを送ろうと動きました。昼の放送で呼びかけ、登校時には募金箱をもって昇降口に立ちました。二中の生徒の思いが被害に遭われた方々を少しでも元気付けることができたと思っています。

終業式では生徒会が、募金へのお礼、メッセージの紹介等、報告を行いました。

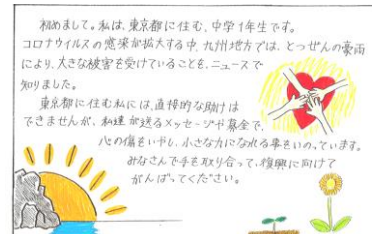
《メッセージの一部を紹介します》

「私は自分になにができるだろうと考えてみましたが、何も思い浮かばず自分の無力さを改めて感じました。でも、こうして手紙にすることができて良かったです。」「何も手伝ったりはできませんが、一日でも早く元通りの生活ができる環境になることを祈っています。」「心の傷を癒やし小さな力になれることを祈っています。頑張ってください。」「大変なことばかりでしょうが、頑張ってください。でも頑張りすぎないでください。休憩をしっかり取って、熱中症・脱水・怪我に気をつけてください。」「不安な日々が続いているかと思いますが、どうか自分を大切にしてください。一日でも早く笑顔があふれる日々になることを祈っています。」

豪雨の被害にあわれた方へ



豪雨の被害にあわれた方へ



行事予定	8月	9月
	17 (月) 始業式 避難訓練(集団下校)	1 (火) 中央委員会
	18 (火) 給食始 夏休み明けテスト	5 (土) 土曜授業(3時間)
	19 (水) (3) 修学旅行前検診	9 (水) 中間考査
	22(土)～24(月) (3) 修学旅行	10 (木) 中間考査
	25 (火) (3) 代休	11 (金) 中間考査
	28 (金) 一斉委員会	19 (土) 土曜授業(3時間)

